

- 下田歌子 慈溪 女子教育者。嘉永七年八月八日美濃國生れ、昭和十一年十月八日歿（二八五四一九三六）。舊姓平尾、初名銘。筆名せき子、勢喜子、平尾うた子、平尾せき、平尾せき子、平尾世茂、平尾哥子、平尾歌子、平尾銘子、源歌子、銘子、香雪女史。明治五年宮中女官、十二年退官して結婚、十四年桃夭女塾開設、夫歿後の十七年宮内省御用掛。翌年華族女學校の設立に参劃、學監、教授を務める。二十一年帝國婦人協會會長、翌年實踐女學校創立、大正九年愛國婦人會會長。
- 著書『家政學』全二冊（上、下。明治二十八年四月二十八日、增補訂正第二版・八月二十一日博文館）、長與藤子著『うたがた』（編、明治二十九年八月十四日自刊）、博文館版『家庭文庫』（『女子普通禮式』明治二十年十一月十六日自刊、『詠歌之草』二十一年四月四日自刊、『婦女家庭訓』七月七日自刊、『母親の心得』九月四日自刊、『家事要訣』二十二年一月十七日自刊）、『花衣一名二井吳服店案内』（合著、明治三十一年一月一日比翁助編刊）、『庭訓お伽噺』（明治二十四年十月四日博文館『少女文庫』）、『新題詠歌捷徑』（明治二十四年十月十七日三省堂書店）、『小秋集』（合著、明治二十九年七月二十八日帝國婦人協會出版部）、『皇國の季—A JAPANESE POETESS』（内題『皇國の季』）^{ヤーサーロイン}下、譯、明治四十年六月十五日春陽堂）、『女子消息文』（小野登堂書、明治四十年十月五日三盟館）、『二體女子消息文』（明治四十四年四月十日精美堂、博文館發賣）、『古今の婦人』（合著・福島四郎編、大正元年九月十六日婦女新聞社）、『日本の女性』（大正二年一月一日日實業文の白木社）、『女子の禮法』（大正五年四月二十日國民書院）、『朝日講演集・第一輯』（合著、大正六年九

月一日大阪・朝日新聞合資會社）、『生活改善の研究』文部省講習會
 會』（合著・文部省普通學務局編、大正十一年十月、二十六日大日本圖書株式會社）、松沼醇子著『秋のめづみ』（編、大正十三年十月松沼行雄刊）、著作集『香雪叢書』全五卷（栗原元生編、第一卷「紀行雜筆よとぎふくら」昭和七年十一月二日、第二卷「歌集雪の下草」十二月二十五日、第三卷「日本の女性」八年一月二十日、第四卷「増補訂正婦人常識訓」二月二十日、第五卷「増補訂正家庭訓」五月二十日實踐女學校出版部）、『遺訓』（平尾壽子筆記、昭和十一年十一月二十六日はしがき、無刊記）等。

文獻、平尾壽子著『下田歌子回想録』（昭和十七年十一月五日山陽社）、『下田歌子先生傳』（春白俊吉執筆、昭和十八年十月八日故下田校長先生傳記編纂所）等。